

第2章 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想の  
基本的考え方

## 第2章 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想の基本的考え方

## (1) 上位計画を踏まえた本構想の位置づけ

亀岡市における、ガーデン・ミュージアム構想に係る上位計画の策定状況は以下のとおりである。

## 1) 亀岡市総合計画

「第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～」が平成23(2011)年1月に策定されており、目指す都市像は、「水・緑・文化が織りなす笑顔と共生のまちかめおか～セーフコミュニティの推進とにぎわいのまちづくり～」である。具体的には、緑のエリアでは、森林の保全を基本に、自然とふれあうレクリエーションの場として活用すること、実りのエリアでは優良な農地の保全・整備と集落環境の整備、都市農村交流を進めること、多くの生きものを守る環境保全と、ふれあい・交流のできる河川空間として活用することなどを目指している。

## 2) 亀岡市都市計画マスタープラン

「亀岡市都市計画マスタープラン」では、まちづくりの目標として、人や環境にやさしいコンパクトなまちづくり、交流によるにぎわいの創出と産業の活性化による自立したまちづくり、豊かな自然環境と調和し景観に配慮したうるおいあるまちづくり、セーフコミュニティの概念に基づく誰もが安全で安心に暮らせるまちづくり、市民・事業者の参画と行政との協働によるまちづくりを挙げている。

## 3) 亀岡市緑の基本計画

「亀岡市緑の基本計画」は、「第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～」の将来像を具体化するための計画であり、貴重なふるさとの景観を守り、育て、『緑』あふれるうるおいのある都市の創造を目指し、緑の骨格である山並みと桂川(保津川)が形作っている“心”を大切に、市民みんなで、緑のまちづくりを進めることとしている。「緑」の将来像図にある「緑」のゾーン、「緑」の軸、「緑」の拠点により、亀岡市の「緑」の骨格の構成と、分野別、地域別の『緑』のまちづくりの方針と施策が示される。

## 4) 亀岡市景観計画

亀岡市では、平成22(2010)年に景観法に基づく「景観行政団体」に移行し、地域の特性を活かす亀岡市景観計画及び亀岡市景観条例を平成27(2015)年4月に制定した。同景観計画では、市民・事業者・行政の協働による良好なまちづくりを目的として、「豊かな景観がはぐくむにぎわいと文化が織りなす共生のまち かめおか～京の奥座敷・川下り・京野菜・銚のにあうまちづくり」を基本理念としている。景観計画では、市の良好な景観の形成に際して、特に地域の景観を活かした景観の形成が必要な地区を「都市景観形成地区」「湯の花温泉景観形成地区」「自然景観形成地区」に指定している。

表2-1：亀岡市景観形成地区の概要

都市景観形成地区	J R嵯峨野線(J R山陰本線)の各駅の周辺は、亀岡市の都市核として住宅の他店舗や事業所が集積し、多くの市民や来訪者が行き交う場所となっている。また京都と山陰方面を連結する国道9号は、市街の人も多く行き交っており、亀岡のまちのイメージに大きく影響を与えているとともに、これから新市街地として整備される土地区画整理事業区域も、今後、亀岡の景観に大きな影響を与えるものと考えられる。そのため、J R各駅周辺のエリアや国道9号沿道、大井町南部土地区画整理事業区域を「都市景観形成区域」に指定し、良好な都市的環境の形成を進める。
湯の花温泉景観形成地区	湯の花温泉は、亀岡の三大観光拠点のひとつとして多くの観光客が訪れる場所となっている。そこで、温泉郷のエリアを「湯の花温泉景観形成地区」に指定し、「京の奥座敷」にふさわしく深みのある、心やすらぐ魅力的な景観の創出を進める。
自然景観形成地区	市域面積の約7割を占める山林は、亀岡市の特徴でもある四季折々の自然の景観を形作っている。特に、盆地の周囲を取り巻く山々は、市街地のほとんどの地点から眺望することが可能であり、今後ともその自然景観を守っていくことが大切である。そのため、盆地の周囲を取り巻き、市街地の背景ともなっている山々を「自然景観形成地区」に指定する。

出典：亀岡市景観計画(平成27年4月)

5) 保津川かわまちづくり計画

平成 23 (2011) 年に策定された「保津川かわまちづくり計画」では、川を持つ魅力や、まちの持つ特性を踏まえた目指すべき3つの目標として、「かわとまちをむすぶ」「かわの魅力を活かしてまちがにぎわう」「かわの自然、まちの歴史と文化にふれあう」が設定された。今後の整備は、「この計画に基づき、河川管理者である京都府とまちづくりの主体である亀岡市や地域をはじめ様々な団体に構成する保津川かわまちづくり協議会により、整備内容や手法及び管理運営方法も含めた実現方策を具体的に検討し、それぞれの役割分担と協働のもとに推進していく」としている。

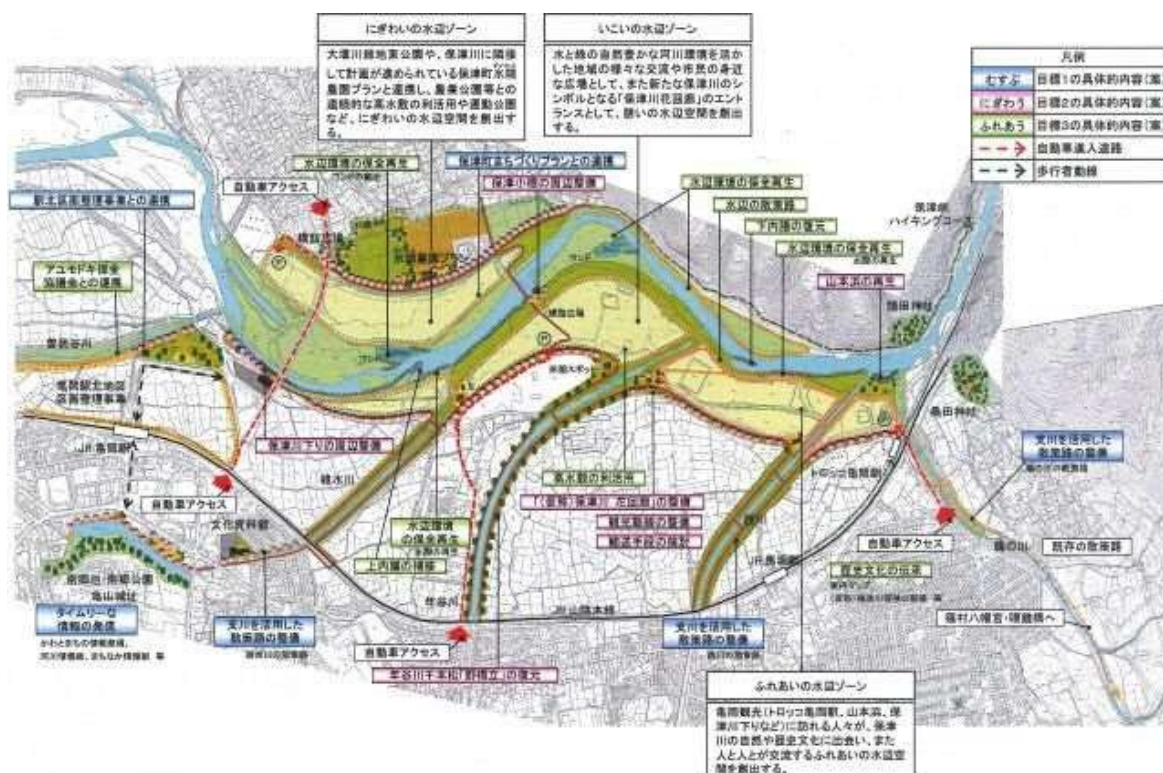


図2-1: 保津川かわまちづくり計画

出典: 亀岡市資料

6) 丹波 NEW 風土記の里整備構想

丹波 NEW 風土記の里整備構想は、歴史的な拠点である丹波国分寺跡・国分尼寺跡を中心として、「丹波の原風景の保全・復元を図るとともに、周辺の田園風景と調和しつつ、歴史性を活かした公園整備を推することとしている。

## (2) 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想のテーマ

亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想は、亀岡市の自然や歴史、産業の特性、さらにこれまでに挙げた上位計画におけるまちづくり、地域づくりの方針を踏まえ、亀岡の地域資源が市民の手によって発見され、保津川をはじめとする環境保全運動、周辺に息づく花や緑による景観づくり、天然記念物アユモドキ、ホタルなどの生物保全活動等を融合させ、市民の暮らしの豊かさや快適性を創造し、来訪者への温かいおもてなしの心を提示する街・亀岡をまるごとガーデン・ミュージアム（庭園博物館）として位置付けるものである。

亀岡盆地に位置する亀岡市は、山並みに囲まれ一望して全体が目に入るひと纏まりの世界があり、米山俊直氏が提唱する「小盆地宇宙」に相当する。

「小盆地宇宙」は、独自の歴史を持ち、独自の文化伝統を持ちやすく、生活様式、生産活動の様式にもそれぞれの環境条件に対応したものが含まれる、といわれている<sup>1</sup>。

亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想においては、市域全体が一体となった「小盆地宇宙」と捉え、各地域に固有の自然環境や歴史的・文化的な特徴をつなげ、市全体を回遊式庭園のように、水やみどりで結び、市民や来訪者が多様な関わりをもつ仕掛けを作りだすこと目指していく。

そこで、本構想のテーマを、**小盆地宇宙で織りなす、豊かな自然と文化のつながりづくり**と設定する。

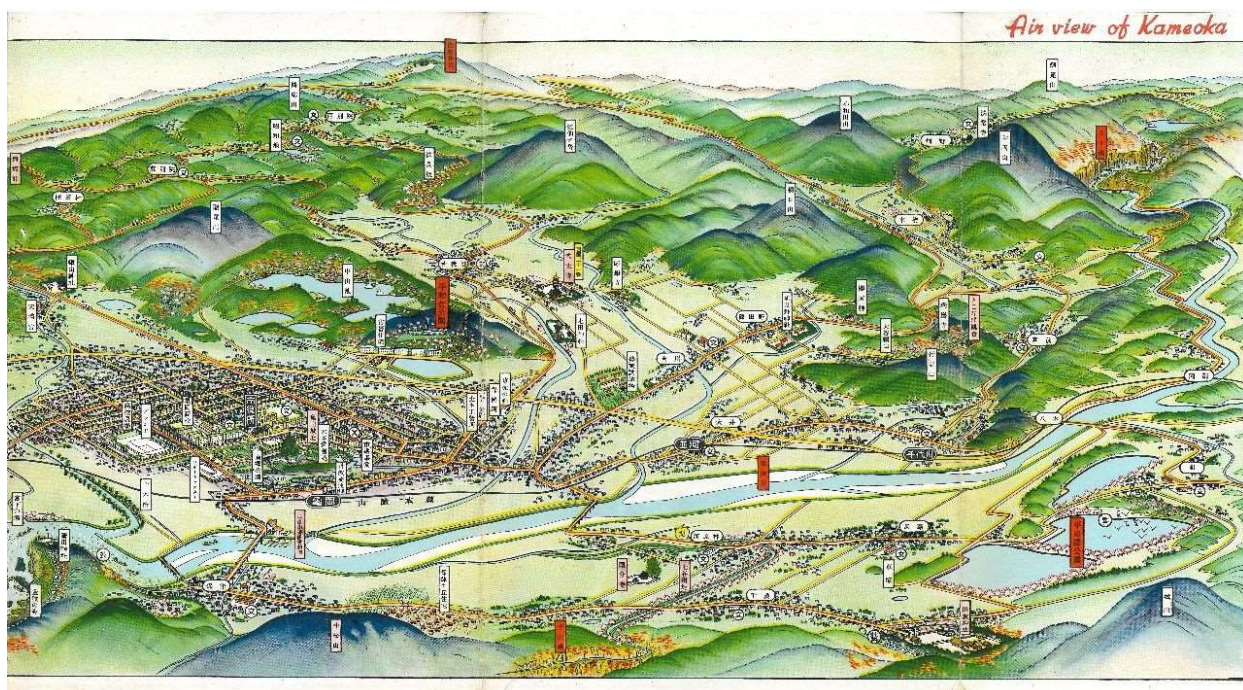


図2-2：小盆地宇宙・亀岡のイメージ

出典：亀岡市観光案内パンフレット「亀岡」掲載の鳥瞰図

<sup>1</sup> 米山俊直「小盆地宇宙と日本文化」